

シグマ研究委員会炉定数グループ

(F.P. 断面積ワーキング・グループ)

第 3 回 会 合 議 事 録

日 時： 昭和 4 2 年 1 0 月 2 4 日 1 3. 3 0 ~ 1 7. 0 0

場 所： 日本原子力研究所東京本部第 1 会議室

出席者： 大竹(富士), 亀井(NAIG), 小林(MAPI), 五十嵐, 富岡(原研)

議 事：

1. 前回議事録の確認
2. 作業状況の報告と検討

第 1 期の作業核種 1 6 核種について, それぞれ担当委員よりその作業状況について報告がなされた。

その作業の結果, 前回の会合において出された意見: "BNL-325, 2nd. ed. suppl, No. 2" に収録されているデータを基礎として, それに新しいデータを付け加えていくのが良い, ということが再確認された。

作業結果の処理について討議されて次のように定まった。

作業結果に, データ・シートに記録し, それらのデータ・シートは, 当分の間シグマ・センター(仮称)において保管してもらおう。保管区分は, 別にしておく。将来これにデータを集積していく。

討議の過程において, IBM カードのようなものにデータを記録し保存してはどうかという意見が出されたが, この問題は, シグマ委員会全体にも関係する大きい問題であるので他日本格的に検討したほうが良いということになった。

小林委員から断面積計算コードの作成状況について報告された。

第 1 期作業結果は, データ・シートにまとめて富岡委員に送る。

3. 今後の作業の進め方

今後の作業は次のように進めることになった。

3. 1. 断面積計算コードへの入力はさし当って小林委員が作成を担当する。負担が大きくなった場合は、他の委員も分担する。
3. 2. 計算コードへの入力となる $\langle D \rangle$, $\langle \Gamma_n^0 \rangle$, $\langle \Gamma_r \rangle$ などの作成が系統的に行なえるようにする。
3. 3. ミクロの断面積、共鳴パラメータの収集は、必要のある場合を除き、今年度は組織的に行なわない。

4. その他

4. 1. 次回は、11月中旬ごろを予定する。

5. 配布資料

5. 1. $^{103}_{46}\text{Rh}$, $^{141}_{59}\text{Pr}$ の共鳴パラメータ (亀井氏)

以 上